

浅川扇状地遺跡群

そり 返 目 遺 跡

三輪 2 丁目団地宅地造成地点

2005 年 3 月

長野市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、マツダ株式会社を事業主体とする「三輪二丁目宅地造成」に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の実施は、マツダ株式会社代表取締役松田次郎氏と長野市長鷺沢正一との契約に基づき、長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センターが直轄事業として実施した。
- 3 発掘調査地籍は、長野市三輪二丁目90-1である。遺跡名称を「浅川扇状地遺跡群 返目遺跡」とした。
- 4 本書は、発掘調査によって検出された遺構と図化できた遺物を掲載した。
- 5 遺構図は1:80、遺物図は土器1:4・石器1:2の縮尺で提示した。遺構図断面の数値は標高(m)を表す。遺物実測図のうち赤色塗彩を施すものはアミかけ、須恵器は断面黒塗りにて示した。
- 6 本書の編集・執筆は森田が担当した。

# 目 次

## 例言・目次

第I章 調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査日誌	
第3節 調査体制	
第II章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境	
第2節 考古学的環境	
第III章 調査成果	5
第1節 調査概要	
第2節 遺構と遺物	
第IV章 結語	11

## 挿 図 目 次

図 1	調査位置図	1
図 2	地形図	3
図 3	周辺の調査歴	4
図 4	調査範囲図	5
図 5	遺構分布図	6
図 6	SD 1 遺構図・壁面図	7
図 7	SD 1 出土土器実測図	8
図 8	SD 2 遺構・壁面図	9
図 9	SD 3・4、SK 1 遺構図・壁面図	9
図 10	SD 2 遺構実測図・壁面図	10
図 11	SD 3 出土遺物実測図	10

## 写 真 目 次

写真 1	作業風景	2
写真 2	調査区全景 東から	6
写真 3	調査区突出部 北西から	6
写真 4	SD 1・2 東から	8
写真 5	SD 3・4、SK 1 北から	10

# 第 I 章 調査経過

## 第 1 節 調査に至る経過

遺跡の所在する三輪地区は市街地から交通の便利な地にあり、昭和20年代後半から地区の南部を中心に公営団地をはじめ住宅や事業所造成などの開発が進んだ。近年は北部にも住宅、団地の造成が行われている。そんな中、マツダ株式会社により宅地造成事業が計画された。事業予定地は埋蔵文化財包蔵地「浅川扇状地遺跡群」の範囲内に位置するため、長野市教育委員会は事業主体者と埋蔵文化財保護に関する協議を行い、事前の確認調査を実施することとした。

確認調査は、平成16年7月9日に行った。開発事業予定地内の道路部分と市道の一部が埋蔵文化財保護対象地となるため、任意の地点に試掘坑を3ヶ所設けバックホーにより掘削した。その結果、畑地であった東半分において、遺物包含層及び遺構が確認されたため、埋蔵文化財の保護措置として記録保存を目的とする発掘調査が必要と判断した。なお西半分においては遺構の残存が確認できなかったため調査対象範囲から除外した。

平成16年9月10日付で事業主体者と長野市長との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、発掘調査の着手に至った。調査においては事業面積約2000㎡のうち道路敷設により埋蔵文化財が破壊される可能性が高い約230㎡を記録保存の対象とした。



図 1 調査位置図 (1 : 10000)

## 第2節 調査日誌

(平成16年度 三輪二丁目団地造成に伴う発掘調査)

- 9月2、3日 表土除去。  
9月13日 機材搬入。  
9月14日 作業開始。10時半雨天中止  
9月15日 土層確認のため壁面精査。土層分層。  
遺構検出。  
9月16日 SD1・2・3、SK1・2発掘。  
SD1土器出土状況写真撮影。  
9月17日 SD3発掘。  
9月21日 全景写真撮影。遺構測量。  
作業員による作業終了。  
9月22日 遺構図結線。土器取り上げ。機材撤収。  
現地作業完了。



写真1 作業風景

## 第3節 調査体制

調査主体者	長野市教育委員会教育長	立岩睦秀
総括管理者	長野市教育委員会文化財課長	塩澤一郎
総括責任者	局主幹兼埋蔵文化財センター所長	矢口忠良
庶務担当	係長	山岸恒雄
	職員	吉村久江
	事務員	塚田容子
調査担当	係長	青木和明
	主査	飯島哲也・風間栄一
	主事	小林和子(調査員・保護協議)
	専門員	堀内健次・清水竜太・遠藤恵実子・長瀬 出・山野井智子 石丸敦史・小出泰弘(調査員)・森田利枝(調査員・編集) 宮沢浩司・山岸千晃

発掘作業員 伊藤八重子・上原律江・後藤一雄・塩入洋子・清水昭光・田中純子・田村秀之・角田恵子  
寺島直利・宮澤周子・宮下美代子・山口勝己

整理調査員 青木善子・池田寛子・多羅沢美恵子・鳥羽徳子・中殿章子・武藤信子・矢口栄子

整理事業員 倉島敬子・小泉ひろ美・清水さゆり・関崎文子・富田景子・西尾千枝・三好明子・村松正子

遺構測量 株式会社写真測図研究所

獣骨は長野市自然史博物館の畠山幸司学芸員に鑑定していただいた。記して感謝申し上げます。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

遺跡は浅川によって形成された扇状地の扇頂側端部に位置し、北西方向から南東方向に傾斜する。下図の地形図（図2）を見ると、調査地の東側は谷地形で緩やかに落ち込んでいる。この谷は浅川の支流が用水として利用されたものであり、谷筋は三輪と吉田、桐原との字境となる。調査区に隣接して=目神社が鎮座する。北側には長野電鉄長野線と北国街道が東西に伸び、周辺には畑地が広がっている。現在ではこれらの畑地はほとんどが住宅地に代わっている。三輪地区には鐘鑄川以南に「三輪たんぼ」と呼ばれる条里区画を残した水田域が広がっていた。「返目」の名の由来については諸説あるが、「地形的に水田耕作には適さない土地」という意であると解釈されている（『三輪郷土誌』三輪地区郷土史部会ほか編2001）。地形図には桑畑が多く描かれる。江戸時代中期以降、この地では養蚕が発達した。

北陸新幹線地点の発掘調査は浅川扇状地を横断する線上に調査したことになるが、その成果として、弥生中期前半から古代までの浅川の推定河道を提示している。（（財）長野県埋蔵文化財センター『浅川扇状地遺跡群 三才遺跡』1998年）浅川扇状地の遺跡が長期存続しないことから、人々は浅川の頻繁な流路変更によって居住域を変えていたと推定されている。浅川は振り子状にほぼ現在の位置から南西方向に移動したと想定され、弥生時代中期後半から弥生時代後期の間に調査区を通過し、古墳時代前期から後期の間に再度通過してもとの位置にもどる。これを参考にする、調査区東側の谷筋も浅川の旧河道であった可能性があり、その開析谷に面した尾根状の微高地に立地する遺跡と捉えられる。

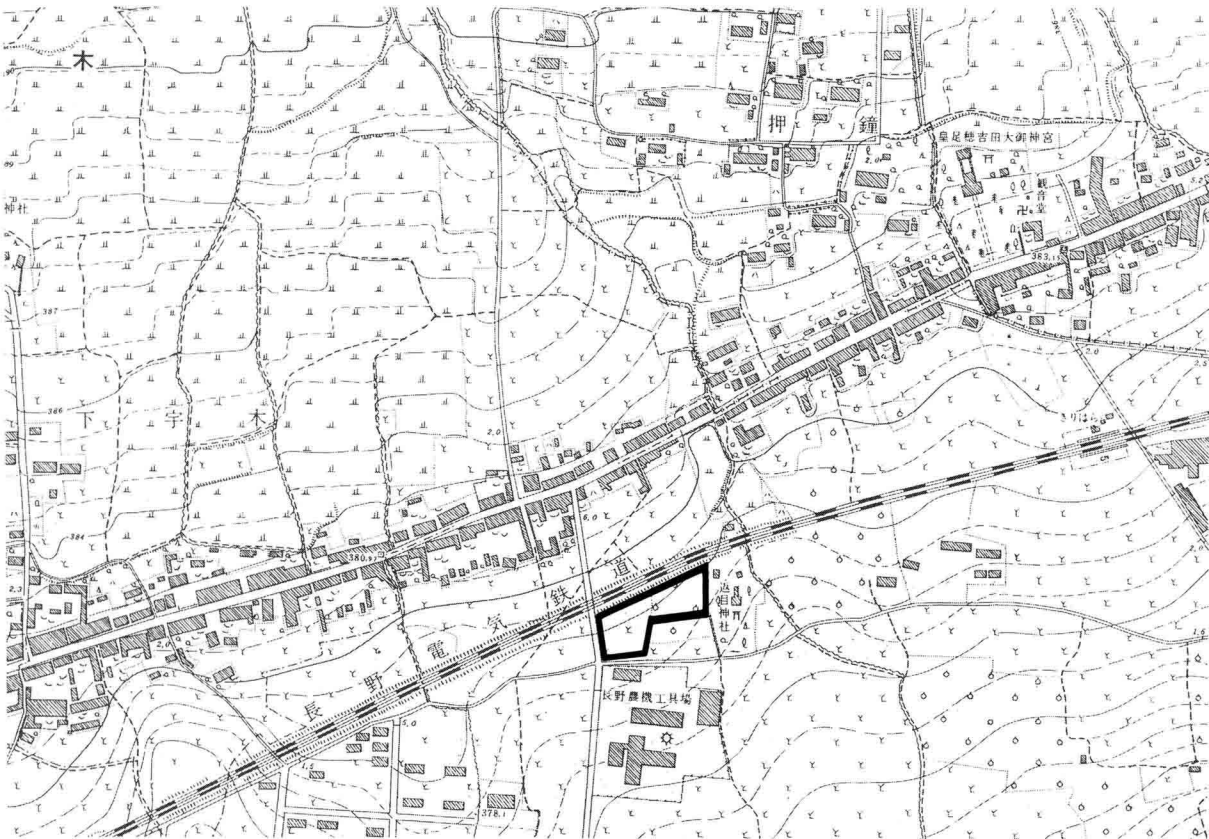


図2 地形図（大正15年測量・昭和27年修正）（1：5000）

## 第2節 周辺の考古学的環境

### 1 本村東沖遺跡（長野高校地点 平成3年度 調査面積5000㎡）

弥生時代中期・後期、古墳時代前期・中期～後期、奈良時代、平安時代の住居跡104軒が確認された。

### 2 下宇木遺跡（うずら幼稚園・市道拡幅・公営住宅宇木団地地点 平成2年度 調査面積1200㎡）

弥生時代後期、古墳時代中期・後期の住居跡16軒が確認された。

### 3 美和公園遺跡（昭和58年度 試掘調査）

古墳時代中期の住居跡の存在が確認された。

### 4 下宇木B遺跡（長野女子高校下水道工事地点 昭和43年）

長野吉田高校地歴班によって調査された。古墳時代の溝跡・土坑・土器集中区が確認された。

### 5 三輪遺跡（1）（三輪小学校地点 昭和50・51・53年度 調査面積2200㎡）

確認された住居跡16軒のうち時期を判断できるのは、弥生時代後期1軒、古墳時代中期2軒、後期4軒、平安時代5軒である。

### 6 三輪遺跡（2）（本郷住宅地地点 昭和61年度 調査面積450㎡）

古墳時代後期から平安時代にいたる住居跡6軒・溝・土坑が確認された。

### 7 三輪遺跡（3）（本郷団地地点 平成2年度 調査面積300㎡）

弥生時代後期2軒、古墳時代前期1軒、奈良から平安時代3軒の住居跡、中世の土坑5基他を確認した。

### 8 三輪遺跡（4）（長野県職員宿舎地点 平成4年度 調査面積900㎡）

平安時代の住居跡2軒・溝跡・土坑・竪穴状遺構・柱穴列（掘立柱建物）および中世以降の五輪塔埋納遺構他が確認された。

### 9 三輪遺跡（5）（仮称滝沢マンション地点 平成5年度 調査面積280㎡）

弥生時代後期から古墳時代初頭の住居跡1軒・溝跡・土坑・近世以降の井戸跡が確認された。

### 10 三輪遺跡（6）（三輪保育園地点 平成7年度 調査面積460㎡）

弥生時代後期住居跡2軒、古墳時代前期1軒・後期1軒、奈良時代2軒他が確認された。

### 11 桐原宮西遺跡

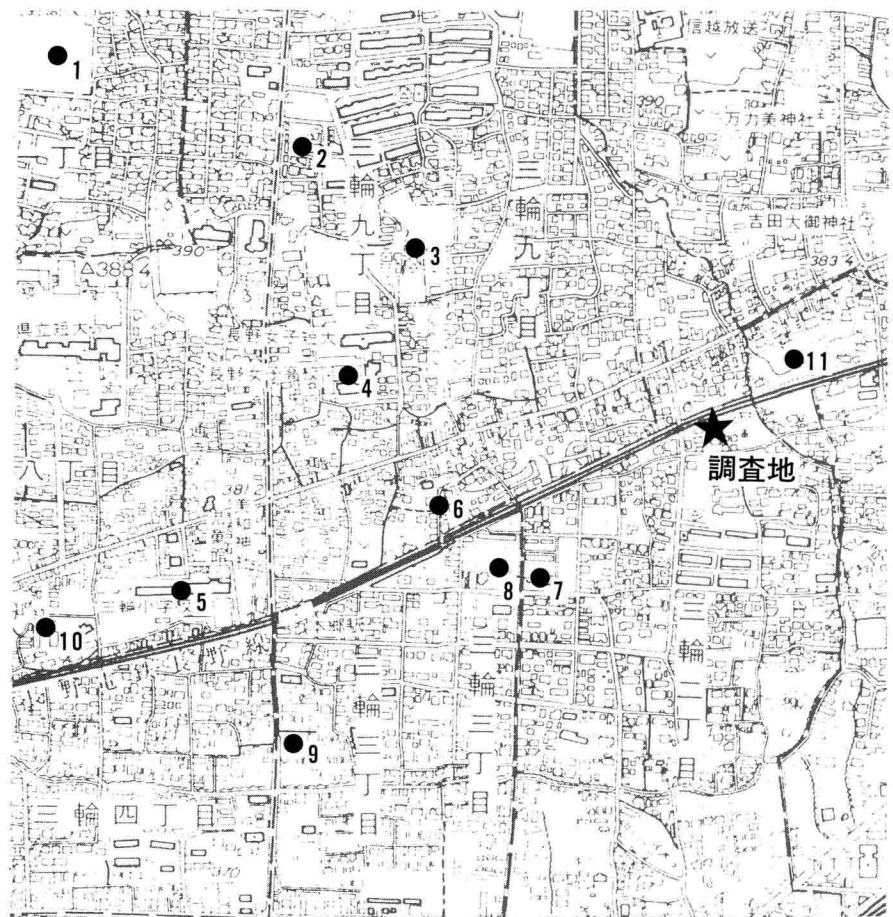


図3 周辺の調査歴（1：10000）



## 第Ⅲ章 調査成果

### 第1節 調査概要

調査区の現況は畑地で標高約380mである。調査対象範囲は宅地造成地内の道路部分に限定され、調査範囲の幅員は約5～7mとなっている。調査面積は約230㎡である。発掘調査は重機による表土掘削ののち、壁面の土層堆積状況確認と遺構検出作業から開始した。土層序確認の結果、遺構検出面誤認のために重機での掘削が検出面下0.5～0.1mに及んでいることが判明した。

調査区は北西方向から南東方向に向かって傾斜する扇状地地形上に位置する。さらに東側の谷地形に向かって緩い傾斜を有する。

基本土層序は調査区東端の壁面において、Ⅰ層：表土（畑耕作土）、Ⅱ層遺物包含層（黒褐色土）、Ⅲ層：基盤層（黄褐色土・砂礫多含）Ⅳ層：砂礫を多含する黒褐色土、である。Ⅱ層が安定して確認できるのは調査区北東部分で、他の壁面では不明瞭であった。Ⅲ層上面が遺構検出面である。

検出した遺構は、溝状遺構4条・土坑2基である。SD1は古墳時代前期、SD2はSD1に切られるが所産時期は不明である。SD3は縄文時代から平安時代の遺物が出土している。SD4は奈良時代の遺物が出土した。土坑は長方形を呈するSK1、竪穴状のSK2がある。

出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・石製品（石匙）・獣骨である。相対的にみて、古墳時代から奈良時代の所産が多いのが特長である。

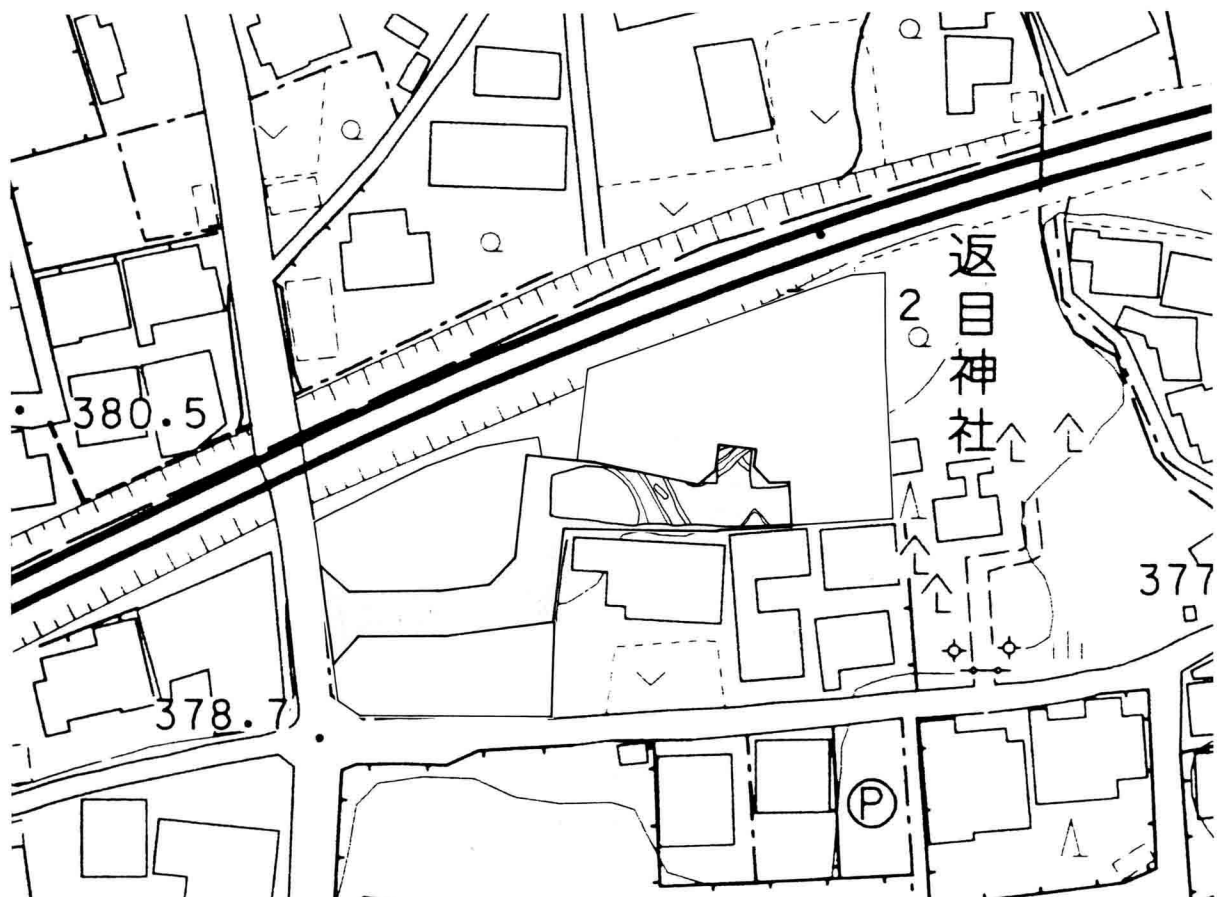


図4 調査範囲図（1：1000）



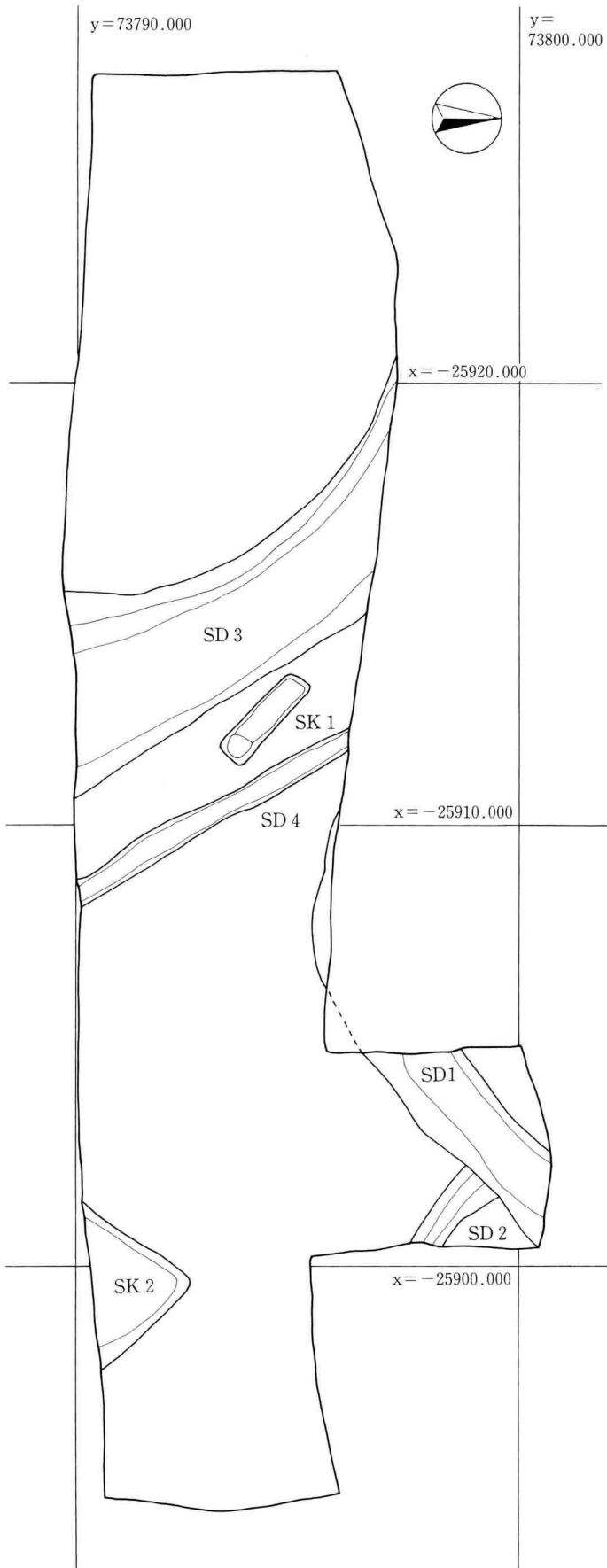


写真2 調査区全景 東から



写真3 調査区突出部 北西から

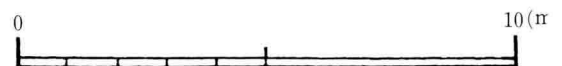


図5 遺構分布図 (1:150)

## 第2節 遺構と遺物

### SD1 (図6)

調査区北東突出部で検出した溝状遺構で、調査区外北東から南西にのび、調査区外を通過して北壁際に浅い落ち込み状の遺構として検出された。覆土の状態から同一遺構として扱う。掘り込みは壁面で最深0.6m、幅は最大幅1.8m、IV層まで及んでいる。覆土は大きく、①層暗褐色土、②層黒褐色土、③かたくしまる暗褐色土、に分層でき、土質から②層は包含層と同じ堆積土であると判断した。遺物は③層から出土した。突出部北壁際の溝底面では写真のような状態で土器が出土した。二重口縁壺(図7-2)の上半が横位の甕(図7-3)に重なった状態である。溝中央部では赤色塗彩された土器の破片(壺の体部)が底面より浮いた状態で出土した。

出土した遺物、出土状況、遺構の形態からSD1は古墳時代前期の周溝墓である可能性があるが断定できない。

### 遺物(図7)

図示した3点の他に、櫛描波状文で施文された甕破片1点、壺破片1点、赤色塗彩された破片数点が出土している。1は覆土から出土した二重口縁壺の口縁部(1/4破片)である。内外面はヨコハケ調整、薄く赤彩の痕が残る。

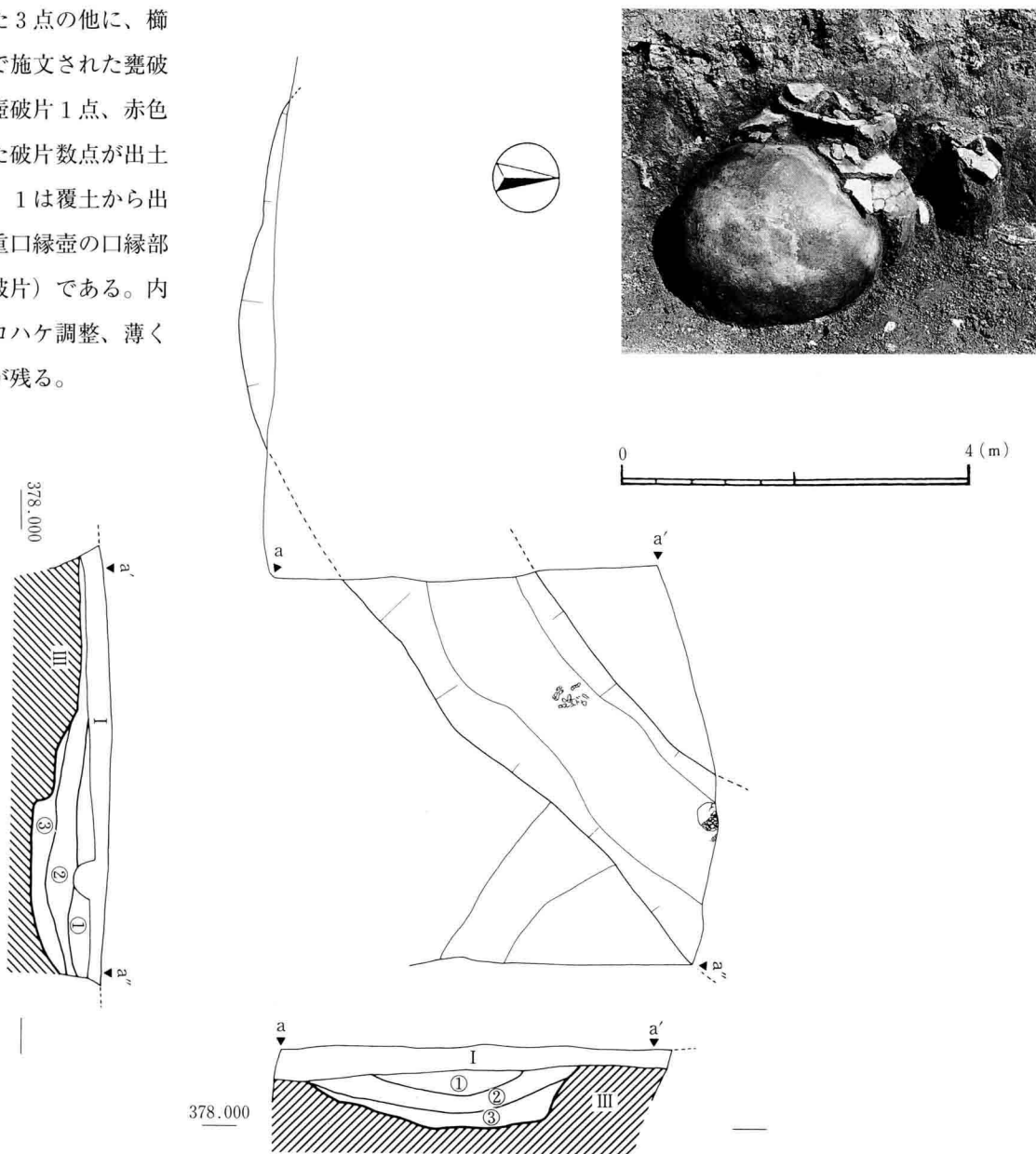


図6 SD1遺構図・壁面図(1:80)

2は図示した部分の1/2が残存し、外面および内面口縁部から頸部までハケ調整され、赤彩が施される。外面胴部はハケのあと粗いミガキによって二次調整される。内面は胴部と頸部の接合部に指頭圧痕が残り、体部上半は板ナデで調整される。口縁部のつくりは、一次口縁と二次口縁の接合部分を外面から粘土によって補強し、工具か指で押した痕が残る。1が断面三角形に貼り付けるのに対して、垂下状に貼り付ける。3は完形で、外面は口縁部から胴部下端までハケ調整を施し、口縁端部はヨコナデによってハケメが消される。胴部中位に帯状のススが付着する。内面は胴部上半を横方向に、下半は縦方向にヘラ状工具で削られる。胴部最大径は中位にあり、器高とほぼ同じ数値で球形胴を呈する。古墳時代前期でも新相に位置する形態であると考えられる。

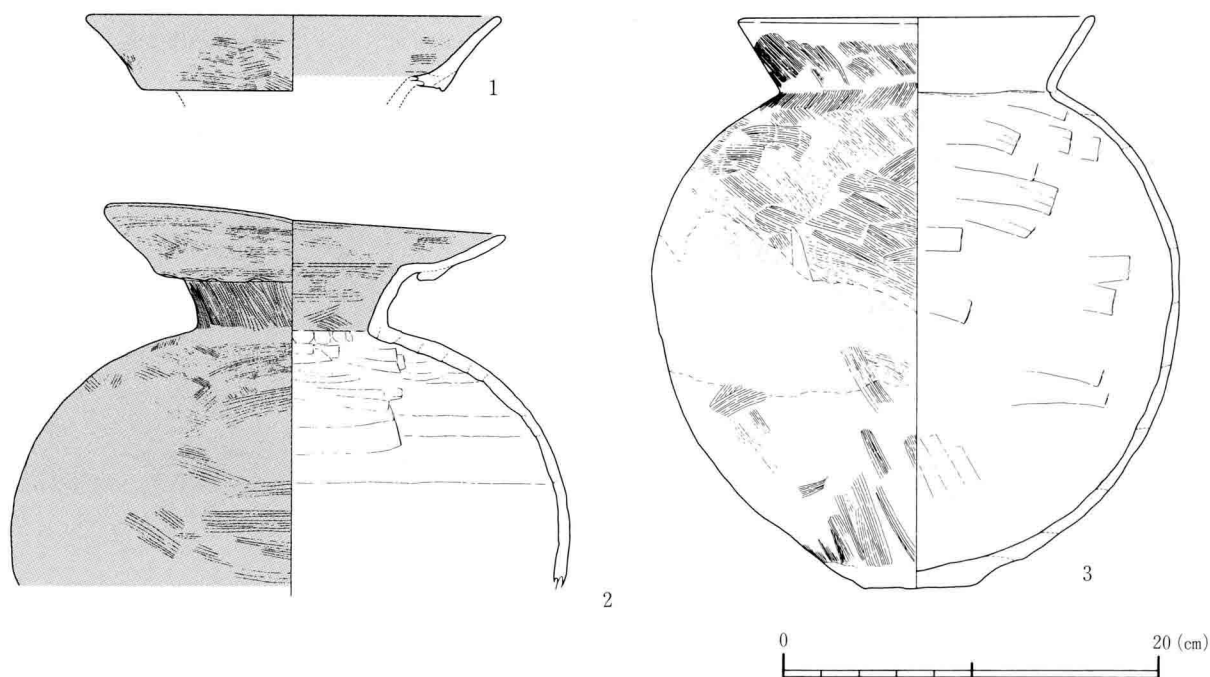


図7 SD1出土土器実測図(1:4)



写真4 SD1・2 東から

**SD 2 (図 8)**

SD 1 に切れ、東は調査区外へのびる。壁面で深さ0.2m幅1.12mを測る。遺物は出土していない。

**SD 3 (図 9)**

北西方向から南東方向にのび、南壁で最深0.5m・幅5mを測る。扇状地地形の傾斜に沿う自然流路と考えられる。覆土は暗褐色を基調とし底面付近は灰色を呈するが、土質はほぼ一定であった。拳大から径3cm程の円礫が混じる。遺物は縄文時代から平安時代のものが出土した。(図11) このうち、帰属時期が判断でき、多数を占めるのは古墳時代から奈良時代のものである。須恵器甕のタタキ調整された体部も多数出土しているが所産時期は不明である。

**SD 4 (図 9)**

SD 3 とほぼ同じ方向にのび南壁で最深0.35m・幅1.3mを測る。遺物は少量で図示できないが、ヘラ状工具による底部切り離し痕を残す須恵器坏1点、土師器甕口縁部・底部各1点出土している。

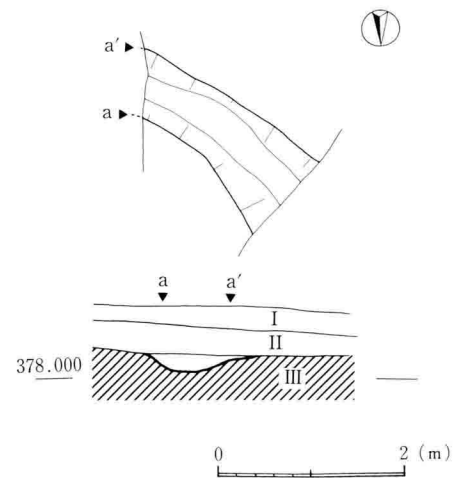


図 8 SD 2 遺構・壁面図 (1:80)

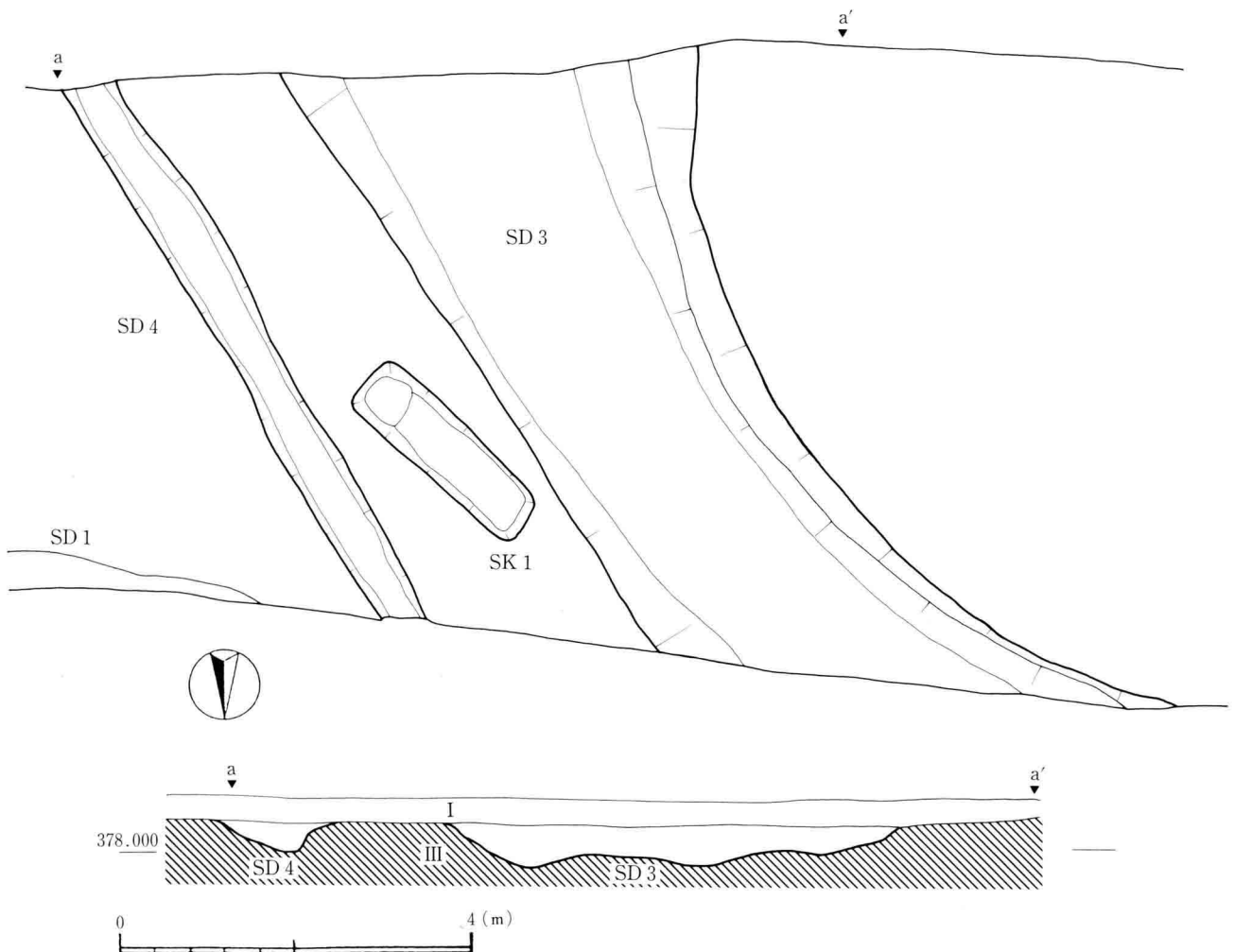


図 9 SD 3・4、SK 1 遺構図・壁面図 (1:80)

**SK1・2 (図9・10)**

SK1はSD3とSD4の間から検出した。長軸2.4m・短軸0.7mの長方形を呈する。深さは約0.1~0.07mで上部は削平されている可能性が高い。覆土は暗褐色土でかたくしまる。遺物は出土していない。

SK2は南側が調査区外に延び、南壁で深さ0.4m幅4mを測る。壁面では堅穴状を呈する。平面形で検出したのは遺構の底面付近である。遺物は赤彩された弥生時代後期の土器片が出土した。



写真5 SD3・4、SK1 北から

**遺物**

図示できたものは全て、SD3出土の遺物である。SD3出土の遺物には他に弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代の土器破片および獣骨がある。獣骨は鑑定の結果、馬の下顎の歯であることが判明した。

1は頁岩製のスクレイパーで縄文時代の所産、2~4は土師器で小破片から図上復元した。古墳時代後期の様相を示す。5~9は須恵器で、概ね8世紀代の所産と考えられる。5・6は底部ヘラ切り後ケズリ調整される。7・8・9は底部ヘラケズリ後高台を貼り付ける。9は底部外面に「×」ヘラ記号が描かれる。

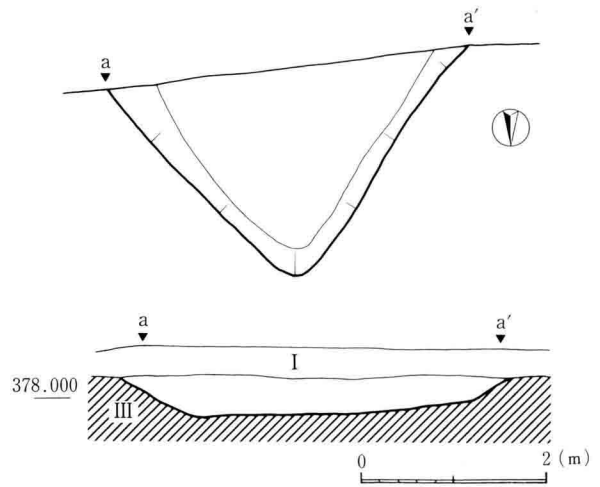


図10 SK2遺構実測図・壁面図 (1:80)

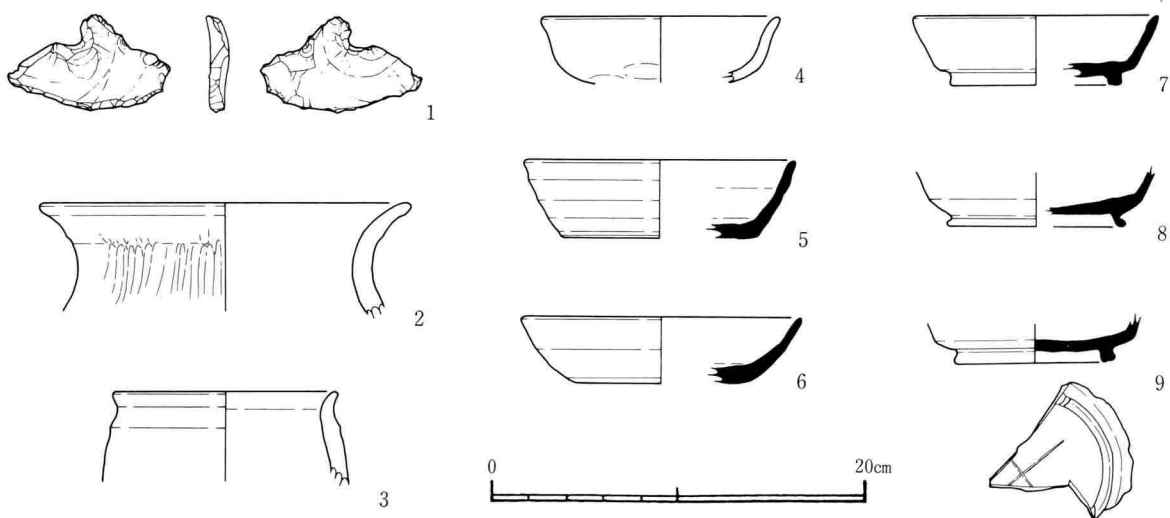


図11 SD3出土遺物実測図 (石器1:2・土器1:4)

## 第Ⅳ章 結語

今回の調査で確認された遺構は、溝状遺構4条、土坑2基であった。時期別にみると、古墳時代前期の土器が出土したSD1、SD1に切られるSD2、縄文時代から平安時代の遺物が出土したSD3、奈良時代の遺物が出土したSD4、弥生時代後期の土器片が出土した竪穴状土坑SK2、時期不明で長方形を呈するSK1である。SD3・4を介しての流れ込みであると考えられる古墳時代から奈良時代の遺物から推して、周辺に当該期の居住域の存在が推測される。平安時代の遺物であると明確に判断できる土器は1点のみであるが、考古学的環境でみたように平安時代の遺構の存在も推測される。縄文時代の遺物は石匙1点が出土している。周辺の遺跡では、吉田地区の吉田古屋敷遺跡、吉田四ツ屋遺跡で縄文時代後期の住居跡、吉田町東遺跡で中期の土器片、北陸新幹線地点（北長野駅付近）で中期の埋甕が確認されている。古墳時代前期の溝SD1は、形態、出土土器、出土状況から周溝墓である可能性がある。



左 图7-2  
右 图7-3

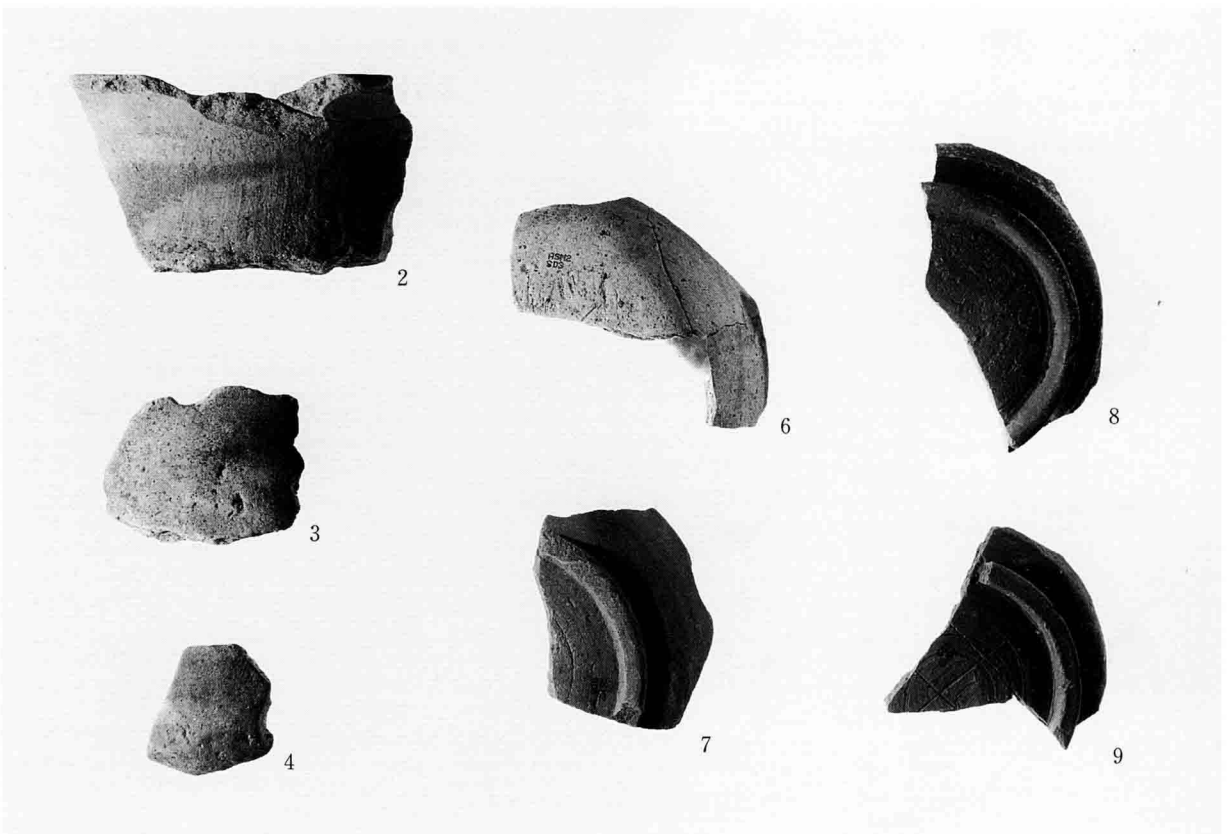
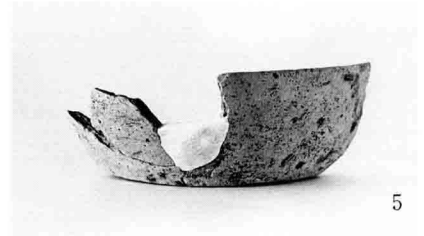
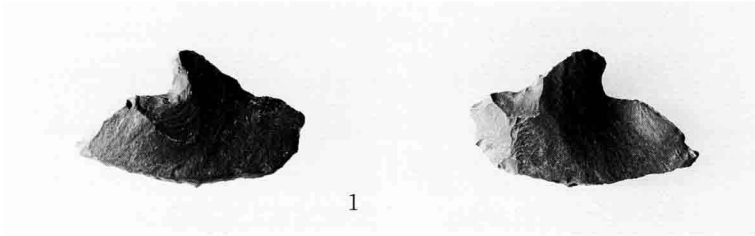


图11-1~9



## 報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐん きりはらみやにしせいせき ごんげんどういせき よしだふるやしきいせき そりめいせき						
書名	浅川扇状地遺跡群 桐原宮西遺跡・権現堂遺跡(2)・吉田古屋敷遺跡(2)・返日遺跡						
副書名	ガーデンパーク桐原宅地造成地点・ぶらっと稲田店建設地点・ポレスターステーションシティ北長野建設地点・三輪2丁目宅地造成地点						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第108集						
編著者名	遠藤恵実子・小出泰弘・森田利枝・青木和明						
編集機関	長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	2005（平成17）年3月31日						
印刷所	信毎書籍印刷株式会社（長野市西和田470 TEL 026-243-2105）						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度 (世界測地系)	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
きりはらみやにしせいせき 桐原宮西遺跡	ながのけんながのし 長野県長野市 桐原1丁目793他	20201	A-093	北緯 36° 39'56 東経138° 12'41	20040405 ~20040428	400 ㎡	宅地造成
ごんげんどういせき 権現堂遺跡	ながのけんながのし 長野県長野市 稲田南土地区画整理事業 施行区域内34街区	20201	A-091	北緯 36° 40'15 東経138° 13'47	20040518 ~20040607	400 ㎡	店舗建設
よしだふるやしきいせき 吉田古屋敷遺跡	ながのけんながのし 長野県長野市 吉田3丁目849-1他	20201	A-087	北緯 36° 40'01 東経138° 13'22	20040714 ~20040803	200 ㎡	住宅建設
そりめいせき 返日遺跡	ながのけんながのし 長野県長野市 三輪2丁目90-1	20201	A-060	北緯 36° 39'52 東経138° 12'35	20040902 ~20040922	230 ㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
桐原宮西遺跡	集落跡	古墳時代後期	竪穴住居	4	土師器・須恵器		
		平安時代	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・小穴	5 1			
権現堂遺跡	水田跡	中世	水田 畦畔 溝		内耳土器 須恵器 土師器		
吉田古屋敷遺跡	集落跡	縄文時代後期			縄文土器		
		弥生時代中期	竪穴住居 埋甕	3	弥生土器		
		平安時代	土器棺墓・土坑墓 溝		土師器 灰釉陶器		
返日遺跡	集落跡	古墳時代前期	溝		石器 土師器 須恵器		

長野市の埋蔵文化財第108集  
浅川扇状地遺跡群

桐原宮西遺跡  
権現堂遺跡  
吉田古屋敷遺跡  
返目遺跡

平成17年3月25日 印刷  
平成17年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会  
発行 文化財課埋蔵文化財センター  
印刷 信毎書籍印刷株式会社